愛知県	半田市	NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ

予算額	29,732,161　円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	12　団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	1　団体	0　団体	11　団体	0　団体

トップアスリート総数	3　名			
トップアスリートの内訳（大会出場別）	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	1　名	1　名	1　名	0　名

アシスタントコーチ総数	1　名

指導種目	バスケットボール・水泳

◆効果を高めるための工夫や取組など

・ 目的①[地域の子どもたちが質の高い指導を受けることができる環境作り]
　多くの子どもたちがトップアスリートの指導を受けることができるよう、近隣市町村の教育委員会と連携を取り派遣先の確保に努めた。

・ 目的②[世代・組織を超えた交流機会の提供]
　巡回先の中学生や高校生が世代や学校の違いを越えて一緒になって交流ができるように、クラブのイベントにボランティアとして参加するよう機会を提供した。

◆成果と課題

〔成果〕

・　トップアスリートの求心力により、巡回先の中学生や高校生がクラブの実施する活動にも参加するようになり、クラブハウスにおいて世代を越えた交流が広がった。

・　県内の総合型クラブに巡回することで、クラブ間のネットワーク形成の足掛かりとなった。

〔課題〕

・　アスリートによる質の高い指導環境を整備するには、継続的な巡回指導の実施が不可欠であり、巡回先の指導者との連携を密に取る必要がある。

地域課題解決に向けた取組

1	取組の名称	スポーツを通した地域の教育力の向上支援				
	趣旨・目的	育児中の親子を対象としたスポーツ環境の整備				
	内容	・親子コーディネーション等の運動機会を継続的に提供 未就学児とその保護者を対象とした「親子deコーディネーショントレーニング教室」を毎月3回実施した。教室では、親子のスキンシップや子どもの運動能力向上・親の運動不足解消などを目的とした、親子でできるコーディネーショントレーニングを行った。 ・孤立しがちな子育て中の親子のコミュニケーションの促進 教室の前後にはクラブハウスにあるカフェテリアを、親子や親同士のコミュニケーションの場として提供した。				
	対象者	地域の未就学児及びその保護者	参加人数／回	16	実施回数	21回
	効果を高めるための工夫や取組など	・　親同士のコミュニケーションの場としてカフェテリアなどがあるクラブハウスを提供するとともに、クラブへの入会を勧め、さらに親子での幅広いプログラムへの参加を促した。				
	成果	・　親子を対象としたプログラムを実施することで、育児に関する悩みを抱える親の仲間作りに貢献した。				
		・　継続的な運動機会の提供により、育児中の親の運動不足解消に貢献した。				
		・　親子で一緒に運動をすることで、楽しみながらコミュニケーションの促進をすることができた。				
	課題	・　仲間づくりや運動不足解消の効果を持続するためには、親子で参加できるプログラムや親を対象としたプログラムの継続的な企画立案が必要である。				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	12　校
コーディネーター総数	13　名

◆効果を高めるための工夫や取組など

・　コーディネーターの技量の向上を図るため、コーディネーショントレーニングの専門家を講師として招き、実技補助や子どもへのアドバイス方法に関する研修会を定期的に実施した。
・　派遣先の学校でコーディネーターが直面した問題や教師との意思疎通の方法などの課題を解決するために、コーディネーター間での情報共有の場として情報交換会を実施した。

◆成果と課題

〔成果〕

・　担任教師とのティームティーチングで授業を進めることで、一斉指導では取り残されていた運動の苦手な子どもへの支援が可能となった。
・　クラブ関係者がコーディネーターとして活動することで、派遣先の児童がクラブハウスへ足を運ぶ機会が増え、そこでも自主的に身体を動かす姿がみられ、さらに学校の垣根を越えた交流も生まれた。
・　コーディネーターが手本を示したり、共に運動をすることで、以前に比べ体育への取組が積極的になった児童が多くいた。

〔課題〕

・　充実した体育授業を実施するために必要な専門性の高いコーディネーターの確保が難しい。
・　ティームティーチングのメリットである個に応じた指導を展開するには、学校管理職・教師の理解、また、コミュニケーションをより密にとっていく必要がある。
・　体育活動支援では、将来的にクラブとして収入を得ることが難しく自主事業化は困難だといえる。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

・　これまでのクラブの活動に参加していない方がクラブハウスに足を運ぶことが多くなり、世代や学校などを超えた交流が見られた。
・　多数の学校や総合型クラブに巡回や派遣をすることで、クラブの宣伝効果があった。

〔課題〕

・　公募開始から事業実施までの準備期間が短く、人材の確保や関係団体との調整が難しかった。
・　単年度契約のため次年度に向けた関係団体との調整が図りづらい。